

# じゃっと新聞

No.55号

活動視察報告・総会御案内

発行日：2010.3.15

発行人：小幡 順子

発行所：じゃっと事務局

〒895-0054 鹿児島県薩摩川内市神田町  
11-20 若松記念病院内

TEL/FAX 0996-27-0193

e-mail [jaddo@po2.synapse.ne.jp](mailto:jaddo@po2.synapse.ne.jp)

<http://www2.synapse.ne.jp/jaddo/>



ナテ小学校の子どもたち

理事 小幡 順子

みなさまお元気でお過ごしでしょうか。

昨春より話題になり心配もした新型インフルエンザも、当初予想されていたより弱毒性であり予防に努めれば心配ないとわかり、ホッとした年末でした。

新型インフルエンザのそうした知識や情報はどこから入ってくるのでしょうか？それは、TVであり、新聞・雑誌であり、また県報や市町村報などの情報誌であったりします。その各種メディアがラオスではまだ整備されていません。TVの普及率は農村部では未だ低く、電気すらない地域が残されています。新聞や雑誌もラオス語のものが発行されるようになりましたが、それは首都ビエンチャン周辺や主要都市地域に限られています。県報や市町村報もあるのですが、それを読める人はどれくらいいるのでしょうか。（実物を読めるという意味と、文字通り「読める」という意味で）

そうしたことをふと考える機会がありました。ビエンチャン市内視察二日目に訪れた新規支援校ポー・ンゴイ校での出来事です。視察が一段落した頃でしょうか、Dr. コンサップが集まってきた子ども達の1人の肩を抱き、村長と激しくやりとりをはじめました。何事かと様子を聞くと、耳から膿が出ている子がいるとの事。「どれどれ」とその子の耳を覗き込むと驚くほどの膿が耳の穴をふさいでいます。これだけ溜まる状態では痛くて夜もよく眠れないだろうと思えるほどの量です。日本だったら「この子の耳は聞こえなくなってしまうよ。こんな状態でほっとくなんて児童虐待だ。」と専門知識のない人でも言いたくなるほどの子どもの状態なのに、村長が言うには、「病院に行く為にはバスに乗らなくてはいけないが、バス停まで遠いしバ

途中、コーンハペンの滝を見学後、コーン島に渡りました。渡し舟と聞いて「フェリー」を連想していた初参加組にはびっくりの台船でコーン島に渡りました。

椰子砂糖を作る農家を見学後、ムアンセーンの船着場で、支援校ドロンカン小学校の村長と会談。相変わらず、学校以外のトイレ設置状況は進んでいないが、コンサップ医師の指導のもと来年度から援助をうけ民家のトイレ建設を計画しているとのことでした。支援校だけでなく、このシーパンドーン地区全体の衛生環境向上と衛生知識啓発を引き続き行う必要があると感じました。

12月26日(土)

### コーン島視察～ワットプー見学～パクセ

朝食後、コーン島北部の集落に移動。

「じゃっど」では、シーパンドーン地区全体の衛生環境向上と衛生知識啓発のツールとしてモーラムの活用を考えています。モーラムとは民謡の一種で、メコン川流域で広くみられるようですが、特別このコーン島のモーラムは有名なのだそうです。現在地元で一番といわれるモーラム演奏家グループにお願いして、その演奏を聞きました。

メコン川沿いに作られた棚台のような東屋で心地よい風にふかれながら聞くモーラムは、想像していたより野太く、しっかりと大地に根を張っているという印象でした。即興性の強い民謡とのことですから、演奏家の方々と協力し合いながら衛生環境向上と衛生知識啓発のツールとして活用する計画を進めていきたいと感じることでした。

コーン島のこの時期、田圃には切り株が点々としているだけの状態です。この辺りでは二期作を行わず、魚が捕れるので地区外に売ることによって現金収入を得ているとのことでした。

その後、車でパクセに向け移動。途中、世界遺産「ワットプー」を見学、パクセ泊。

「島の食事は日本人には辛かったでしょう」と Dr. BB お奨めの「コリア鍋」で夕食。癖のある食事に音を上げていた初参加者が「久しぶりに腹いっぱい食べた」と喜ぶ味でした。

「コリア(韓国)鍋」：プルコギ型の鍋で、上の丸みをおびたところでは焼肉、ふちの汁が溜まる部分では寄せ鍋という、絶対韓国にはない鍋料理です。

12月27日(日)

### パクセ～ビエンチャン

#### 移動後、市内観光

飛行機の時間まで、パクセの市内観光。(ダオファン市場、日本が援助した友好橋など)

\*友好橋：メコン川にかかる全長 1380m の橋でラオス紙幣 10000kip 札にも描かれています。この橋は、日本の ODA 協力によって 2000 年に完成し、パクセ周辺の経済発展に大きく貢献しています。

空路ビエンチャンに移動。昼食後、ワットプラケオ、ワットサーケート、ワットポーなど市内観光。

12月28日(月)

### ビエンチャン市内支援校視察

今日から 3 日間は、ラオスで農業指導の仕事の傍らモーラム(P13 参照)研究を行っている「虫明悦郎」氏に通訳を頼みました。旅行途中にラオスに立ち寄り、すっかりラオスに魅せられ独学でラオス語を身につけた方です。ラオス滞在も長い方なので、ラオスの色々な情報を教えていただく意味でも案内をお願いしました。

2002 年から援助を続けているナテ小学校を視察。注文していた机椅子募金の机椅子の製作が間に合わず、とりあえず出来上がった分だけの記名作業を行いました。昨年、じゃっど新聞にも登場した先生のお嬢さんが大きくなっていて、また同じ場所で写真を撮りました。

ナテ小学校から車で 10 分のところにあるタディンディン小学校視察。2006 年から対象校となり校舎建設など行ってきた学校です。昨年訪れた時には仕上げ作業の残っていた校舎も完成し、更に韓国の団体から援助を受けた新しい校舎が出来上がっていました。

2003 年から援助しているノンケン小学校視察。昨年建設途中だった図書館は出来上がってはいましたが、中の整備が進んでおらず、もう少し

ス代もないから連れて行けない。」との事。そうしたやりとりに、この国の病気に対する知識不足とあきらめを感じたのでした。

こうしたことを解決するには、やはり衛生の知識や情報を広めることが重要なのではないのでしょうか。知識の差が、生死の差であってはならないと思います。ラオスの活動名「小さなお医者さんプロジェクト」の名のとおり、保健衛生に対する知識を学校や家庭、地域みんなが持てるように情報整備・基盤整備が必要なのだと改めて思うことでした。ポー・ンゴイ校で見かけたようなことがおこらないように、今後ともみなさまのご理解とご協力をお願いします。

(見かねた Dr. コンサップがその子の交通費を負担し、病院に連れて行くことで村長を説得しました。また Dr. コンサップの娘さんでありじゃっどのスタッフである Dr. ナナが本業の巡回衛生指導の際、事後確認するように手配しました。)

## じゃっどスタディツアーに9名が参加しました。

### 日程と、参加者のレポートです！

#### じゃっどスタディツアー 09. 12月実施

12月24日(木)

##### 移動日(福岡～ソウル～シェリムアップ)

福岡空港集合で後発班3名が移動。先発班とはシェリムアップで合流。

シェリムアップはアンコールワット観光の拠点都市でにぎやかな街です。先発班6名は二日前に日本を出発し、アンコールワット観光を楽しみました。

現在のアンコールワット観光の主流は、韓国人之のこ。クリスマスシーズンのこの時期ホテル料金も上がり、ビックリ値段でした。

12月25日(金)

##### シェリムアップ～パクセ～コーン島

ラオス南部の都市、チェンパーサク県の県庁所在地パクセに空路移動。移動中、眼下には活動地のあるコーン島が見え、「ここで降りして～」と言いたくなりました。空港では、2007年の訪問の時にも大変お世話になった Dr. BB が迎えてくれました。チェンパーサク県の母子保健の元指導者

で、笑顔が素敵なお母さん先生です。チェンパーサク県の衛生状況に詳しい方なので、今回もご同行願いました。

到着後、空港から車で5分ほどのところにあるホアポーン(HOUAYPOUN)小学校を見学。チェンパーサク県の入り口に位置している学校ですが、外国人が訪れたのは初めてとの事。錆びたトタン屋根が印象的な学校です。各学年1クラスの学校です。ひとしきり見学を済ませたところ、午前の授業が終わり、子どもたちは外国人の私たちが気になりつつも、お昼の鐘と同時に元気に家へと帰って行きました。その後、先生方と話し合いを行いました。職員室や図書館がないので援助して欲しいとのことでした。

よ～く話を聞くと本来なら今年は、この時期は冬休みとの事。私たちの訪問に合わせて出校日にしたらしいのです。(12月上旬に開催されたシーゲームに関係で今年は冬休みが長いとのこと)この先、訪れる学校は特別に出校日にしていることになりそうです。

パクセ市内で昼食後、チェンパーサク県の南部シーパンドン地域を目指して移動しました。

努力の跡が欲しいところです。

学校によっては、「貰ったらそれでおしまい」というところもあり、こうして定期的に視察する事で衛生啓発運動が継続されるとじゃっどでは考えています。今回のように日本から訪れるだけでなく、ラオス人医師である Dr. サムチットや Dr. コンサップが、支援校に対し定期的に事後視察を行ってくれています。

この日、道沿いにある食堂で昼食でした。店先に蛙の形をした薄い皮のようなものがありました。「？」と尋ねると、まさしく蛙の皮を干したおつまみの一種との事。DR. コンサップが笑いながら注文してくれたそれは、素揚げにされてまさしく姿揚げ状態。チャレンジした味は…、魚の皮を干したものに近かったです。

じゃっどの活動でもお世話になっている D E F C が建設した民間経営のタンミンサイ図書館見学。D E F C では、ラオス北部での学校建設活動も行っており、その活動について意見交換を行いました。

## 12月29日(火)

### ビエンチャン市内支援校視察

2002～3年支援校、サムケート小学校視察。今年度机椅子寄贈予定の学校です。前回訪れた時にはなかった、職員室や託児室などがあり、次は図書館を作りたいと校長が話していました。相変わらず積極的に教育活動を行っている様子が伺えました。

シーゲームで建設、使用されたスタジアムや記念道路などを車窓から眺めながら、次の訪問校 Pho-Ngoi(ポー・ンゴイ)小学校へ移動しました。

この学校は今年度からの支援校です。小学1～2年だけの小学校で、3年生以上は車で10分ほどのところにある本校へ通うのだそうです。車で10分と簡単に書きましたが、灌漑整地の整った田圃脇の道路で、凹凸が激しく、登下校中、雨に降られても雨宿りもする場所もないような道です。体力のない低学年の子が雨に打たれ体調を壊すことも珍しくなく、衛生環境がよいとはいえない地域に

あるため、今回の支援校追加となりました。

灌漑整地された田圃を更に友好橋方向に移動し、ラオス初の駅舎を見学。お隣タイ・ノンケーンからわずか一駅だけの鉄道です。09年11月頃に開設され、一日2往復だけのダイヤのため、駅周辺はまだ開発されておらず、静かな風景でした。

市街地にもどり、ラオスの文化である染物織物工場などを見学。その細やかな染めや織り、細工に一同感心したのでした。

## 12月30日(水)

### ビエンチャン市内視察

#### ビエンチャン～ハノイ～ソウル

参加者の希望により、シャンティ図書館を見学。ちょうど冬休みの為、日本人スタッフは在席していませんでしたが、留守番のラオス人スタッフから気持ちよく迎えていただきました。じゃっどでも「絵本活動」として行っている、日本語の絵本にラオス語のシールを貼ってラオスに送る活動を行っているのがシャンティです。絵本の奥身に書かれたシールを貼った人の名前を見て、じゃっどのシール貼り活動に参加したことのある若松郁子さんは「私の絵本もこんなにして、ラオスのどこかにあるのよね」と感慨深げでした。

お土産屋さんを覗いた後、観光客相手の店の多いメコン川沿い近くにある「ジャイカフェ」で休息をとりました。その名前の通り、JICAが経営するカフェで、現地NGO活動の情報収集の場となっています。スタッフの1人が、現在鹿児島にある高等専門学校に留学しているミーサイ君の先輩とわかり、話がはずみました。

空港に移動し、日本への帰国の途につきました。

## 12月31日(木)

### ソウル～福岡

ソウルでの乗継時間、熱帯地方に慣れた体が悲鳴をあげるほど寒かったです。来年参加される方も要注意です！

## 鮎川 典子

——ラオスってどこにあるの？どんな国？——



じゃっどの活動もボランティアも理解していないところから出発したスタディツアーでしたが、たくさん見て感じる事が出来ました。

コーン島と首都ビエンチャンの小学校数校を訪問しました。

どこも長屋のような作りで、床はコンクリート屋根はトタン、壁はブロックや煉瓦を積んで窓がはめ込みなのが基本でした。場所によって壁が塗られているところもありましたが、村の経済状態や援助の受け方などでも違っているそうです。

子供たちは、制服を着ている学校もあれば私服もありました。制服の女の子や女性の先生は、シンという織物のスカートをはいていて、女性の正装のようです。長さや色合いは好みや流行



で様々でしたが、織りの模様は地域によって特徴があるそうです。町中や市場、ホテル、空港などあちこちで見かけました。ラオスの女性は、スタイルが良い人が多くとても素敵に見えました。

じゃっどの活動も見学しました。校舎やトイレ

設置は、村からも資材や労働力を出してもらって行っていること、「手を洗う」「トイレを使う」習慣化や学用品・図書の寄贈などの取り組みについての説明、「アナマイソング」も聴かせてもらいました。状況は、場所によって様々でしたが、物質的に提供するだけでは生活を豊かにする支援にはならない、時間をかけて関わりながら意識を変えていくことの大切さを目の当たりにしました。現地の人たちと一緒に衛生や教育環境を整えることを行うことは、支援を身近に考えてもらい、自分たちの命や健康を守る意識を持ってもらうために重要なのだと思いました。

ラオスは、いろいろな国や団体の支援を受けていますが、ラオスの人々が自らの意志で良くしていけるような支援に結びつけなければ、与える側の都合が優先してしまうことになり支援するとはどういうことなのかを改めて考えさせられました。

支援の様子を見る一方で、モーラムという伝統音楽を聞き、世界遺産のワットプーやコーン

島にある滝、織物工場や椰子から砂糖をとる様子も見学しました。モーラムは、ケー



ンという日本の雅楽で使われる笙に似た楽器と小さいシンバルのようなチンという楽器での演奏に即興の歌が歌われました。ケーンの独特なリズムと素敵な声で魅力的な顔立ちの歌手の女性がとても印象的でした。

椰子から砂糖をとる様子は、竹の筒に樹液を入れて煮詰めていくのですが黒糖のような味がしました。食事では、フランス領だった事からラオス料理に珍しいものがありましたが、意外に思ったのは、フランス

領だったことからフランスパンが美味しかった

ことです。国産のコーヒーもありました。コンデンスミルクをたっぷり入れて飲むそうなのですが、コップの底に1センチ位コンデンスミルクが沈んでいるのが運ばれて来たときは驚きました。

乾季で過ごしやすいと聞いてラオスに入る前の経由地カンボジアへ到着しましたが、夜中にもかかわらず蒸せてしまいような湿度の高さでした。翌日からはほとんど晴れて、移動に支障はありませんでしたが、ビエンチャンでの2日間、朝の出発前に通り雨のような雨が降りました。ラオス在住でビエンチャンに同行して下さった虫明さんもこの時期の雨は珍しいと言われていて地球の温暖化を感じさせるような出来事もありました。

今回、首都のビエンチャンや南部の訪問でしたが、ほんの少し郊外に行くと電気や水道の供給が充分でないところや道路状況が悪く、板葺きの家もたくさんありました。北部の山岳地域ではさらに食糧事情も経済状態もよくないところがあるともききました。日本に住む我々からすれば生活水準の低さを感じました。

帖佐先生方や小幡さんが支援している姿やツアーに同行されたソムチット・コンサップ医師やビービーさんが現地で行き交う姿を、実際にラオスで見て、ラオスのこれからを豊かにしてこうとする強くて温かい思いを感じました。私もボランティアを含め人と関わることをもっと考えて行動に移していきたいと思いました。参加させていただいて感謝します。



【メコンの夕暮れ】

## 野元 善文

ライオンズクラブでラオスに学校をつくろうかという話がでて、まずラオスを見に行こうと言うことになりじゃっどのツアーに参加しました。友人らにラオスに行くことを話すと、皆の一声は「ラオスってどこにあるの?」と、ラオス国自体あまり知られていないようでした。また私自身ラオスは、ベトナム隣接国程度で文化、産業など何も知りませんでした。

まず、現地について驚いたのは、ほとんど平野で何も植えてない田んぼばかりでした。その田んぼに牛を放牧しており、後で聞くと今は乾季で、5月か6月頃が田植え季節だそうです。この田んぼで収穫されたもち米を蒸したものはとてもおいしいでした。



最後に今回は観光ツアーではなかったのですが、ラオスの町や村で住民と身近に触れ合うことができました。ラオスの子どもたちの笑顔と人々の優しさに触れ、この学校建設に携わることができて本当に良かったと思います。



はいポーズ! (視察先の学校で)

## 内田 耕也

- 期間が長かった。

観光も兼ねてはいたものの、10日間は大変長いでした。最後は草臥れて

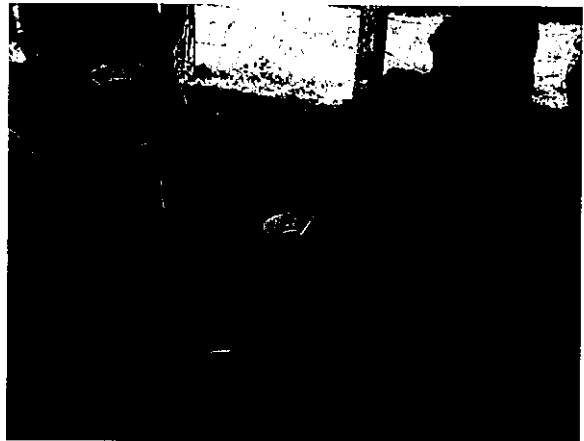


しまい、正月の三が日は完全に寝正月でした。

- ラオスの人は親切でした。  
コーン島の宿に自動車免許証(家に置いておくべき)を置き忘れてしまい、相当に遠くまで取りに帰って下さいました。感謝、感謝でした。
- 子供たちは元気で、笑顔が素晴らしいでした。写真①
- 生活は大変貧しいようにみえました。  
田舎の住居は高床式で、少し強い風が吹くと壊れるのではないかと心配でした。ちなみに地震な無い国だとのことでした。
- じゃっどの活動は素晴らしいものだと、思いました。  
多くの学校に日本語とラオス語で寄贈者の名前が記入された机があり、それらの学校ではトイレも整備されていた。また、子供たちが保健衛生をテーマにした歌を合唱するなどして成果を喜んでいる姿が見られて、感心しました。(写真②)
- 南十字星が大変きれいでした。  
早朝メコン川の川辺で、大きく輝く南十字星が見られました。しばし、南の国に出征された兵隊さんのことを思うことでした。(私は1934年生まれです)
- 食べ物は口に合いませんでした  
ある学校で子供達が美味しそうに食べているのを見たので、これなら食えると思って昼に麺を注文したのですが、ダメでした。帖佐

先生が美味しそうに食べている姿が羨ましいでした

- 日本料理専門店に行きました。  
我慢できずに日本料理の注文をしました。それなりの会席料理でしたが、高くつきました。おかげで、帰りにお金が無くなり、借金をすることになりました。
- 学校は作らなければいけないと思って帰ってきました。  
私たち(内田と野元)は、川内ライオンズクラブでラオスに学校を作る計画をたてましたので、その事前調査も兼ねていたのですが、現地の実情からして、この計画はぜひ実現させたいと思いました。



写真①



写真②

## 江口 是彦

— 少し見えたこと・知ったこと —

ラオス（ラオス人民共和国）って、多くの国に囲まれた内陸国です。

ラオスの場所・位置知りませんでした。

北に中国、西にミャンマー、東にベトナム、南にカンボジア、タイと国境を接する東南アジアに位置する内陸国でした。

その国土の北から南までをメコン川が貫くように流れているが、メコン川はそのほとんどの部分でタイと国境を形成している。

「NPOじゃっど」とラオスの関係って15年以上も続いているんだ。

事務局長である帖佐理子先生が1992年初めてラオスを訪ね、子どもたちの声につられて学校の様子をのぞいたことがきっかけとなり、94年度よりラオススタディーツアーが行われている。

小学校を訪問して、そこに市役所職員の名前が記された古い机、イスがあるのを観た時、「NPOじゃっど」の足跡を実感できた。

有志議員団の名を記した新しい机、イスの前に並ぶ子どもたちの目の輝きを見て、子どもは世界共通の宝だと思うことでした。

じゃっどが行っている学校保健の援助って学校設備・教材への寄付・援助だけじゃなかった。

学校を訪問すると、子どもたちが「アナマイソング」を合唱してくれました。とてもきれいな歌声に感動しました。この歌はじゃっどが作成したオリジナルの衛生の歌なんだそうです。じゃっどが行っている援助って、子どもたちへの健康教育、教師へ学校保健セミナーというソフト面での地道な活動が根っこにあったんです。

じゃっどの活動は、ラオス地元の医師や教師な

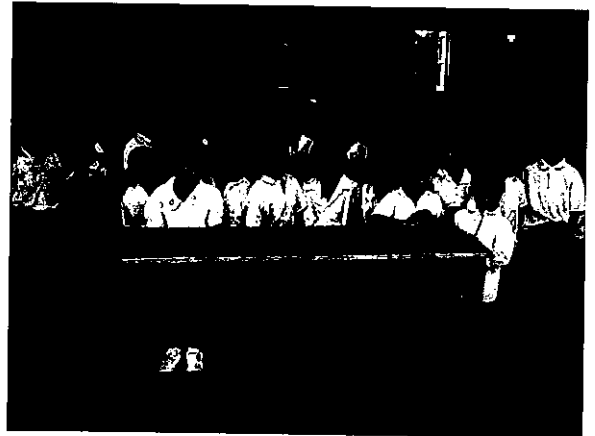
ど多くのボランティアに支えられています。

ラオスでは、ソムチット医師、コンサップ医師夫妻をはじめ役所のお偉いさんなどが毎日同行してくださいました。

ラオス側のスタッフの協力があって継続できているんだなあと思うことでした。

「NPOじゃっど」のこと、ちょっとだけ身近になりました。3月議会でも紹介します。

薩摩川内市を拠点として、国際協力活動しているなんてすばらしいことです。



机、イス記名作業後、腰かけて集合写真



メコン川を背景に現地スタッフ、参加者の皆さん



## 若松 郁子

2009年暮れにじゃっどツアーに参加しました。カンボジアのアンコールワット、トンレサップ湖水上生活を見学の後、ラオスを訪ねました。

16年ぶりのラオス。まずは空港が新築され、首都ビエンチャンも建物が増えて活気をも感じました。早速現地じゃっど代表コンサップ、ソムチット医師夫妻にお会いして、以前から支援している小学校を数か所案内して頂きました。

校長先生、担任の先生、児童生徒に迎えられました。初めに訪ねた小学校では、ヤシの実の果汁（実に直接ストローをさす）をいただき、飲むこと格別の感じ。美味しく頂きました。

16年ぶりに訪ねた小学校の児童たちは、明るいと思うことでした。暖かい国ゆえに窓なしの教室ですが、机はほとんどじゃっどから贈られた3人掛けのものを使用していました。

最後にコンサップ医師の音頭で衛生教育、手洗いのうた（じゃっど作）を笑顔で歌ってくれて楽しい日々でした。次期ライオンズ会長内田氏他Lメンバー3人はラオスに小学校建設の事も考えて、その下見がてら関係者にお会いすることもできて幸せでした。16年ぶりのじゃっどツアーに参加できてありがとう。



学校でスポーツ用品を渡す若松郁子氏

## 帖佐 理子

過去2年は、年末に高校生、大学生対象のスタディツアーを行っていましたが、今年度は新型インフルエンザ対策のないままの高校生派遣は中止しました。当初、小幡理事長と帖佐とでじゃっどラオスのメンバーたちと話し合う予定でしたが、結局9名の視察団となりました。

特に今回は、川内ライオンズクラブが DEFC (De-mining and education for the children) の略で「地雷ではなく、教育を！」と活動している NPO) の仲介で、ラオスに学校建設をされるということからラオスの現状を見たいと、ライオンズクラブのメンバー3人の参加もありました。

いつもより平均年齢が高かったのですが、先発隊には、帖佐のアンコールワット行きにお付き合いいただき、かなりハードになってしまいました。申し訳ありません。

例年通り学校訪問を行いました。今年は机いすの完成に手間取っており訪問時にご寄付くださった方々のお名前記入という大事な仕事をする事ができませんでした。お詫び申し上げますとともに、数か月以内に日本人“じゃっど”サポーターに記名をお願いして写真をお届けしますことをお約束いたします。申し訳ありません。どうぞ、しばらくお待ちください。

では、ラオスの現状についてお伝えします。

### 携帯電話

カンボジアを経て到着したラオスのチャンパスックは、小さな地方空港ですが世界遺産のワットポーが在る故に、観光客受け入れのための国際空港です。小さいので、入国審査が短時間で済み、良かったです。

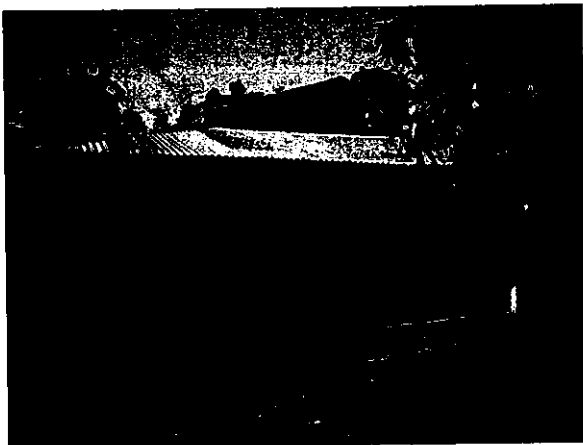


バクセ空港



この空港で、日本の携帯電話から Dr. ソムチットの携帯へラオス国内電話として通話できたのには驚きました。ジャットが活動を始めた 1995 年は、国際電話は直接通じないこともあり、オペレーターに頼んでいても通じるのに 30 分以上かかることもありました。

その後も、貧しさ故に電柱、電線、電話線がなかなか町の外へとは広がりませんでした。2000 年に携帯が出始めましたが、メコン川岸でないと電波が通じにくいことが多かったです。それが、この数年、携帯電話が一気に普及しています。電線を引く必要が在りませんし、プリペイドカードで通話料を支払う前払い形式ですので、電話を買ってすぐに使用できます。電波の範囲がかなり広くなり、かなり町外れでも日本との通話が可能になってきました。小幡理事長は 2008 年にコーン島よりカンボジア国境に近いメコン川の舟の上で日本からの電話を受けました。村の竹やヤシの葉で作った店先に携帯電話のプリペイドカードを売っている看板が下がっています。



## 中国の影響

2005 年の ASEAN 外相会議、2009 年の SEAGAME で、ビエンチャンは大きく経済成長したように見えます。ちょうど日本の東京オリンピックのころのようです。ただ、この成長が当時の日本の様に底上げになっているといいのですが、どうも、貧富の差が開いているようです。首都といくつかの地方都市は、携帯と自家用車が増え、清潔なトイレも増えています。子供たちはきれいな服を着ていません。しかし、郊外へ行くと子供たちは未だに赤茶色の土の色がうっすらとついた元は白かったであろうシャツとゴム草履です。

SEAGAME 開催にあたり、大変立派でモダンなスタジアムができていました。当初日本が援助を検討したが、あまりに高値（約 72 億円）なので日本は援助を断ったと聞きました。結果、中国の援助で完成したのですが、中国は、建物の援助の際、その敷地の利用権は中国に帰するよう求めるそうです。2000 年頃から中国の援助で歴史博物館など大きな建物ができています。つまり、ラオスのかなりの部分が今や中国領となっているというわけです。日本の援助の在り方、国としての援助と民間の援助、それぞれ目的が違います。しかし、国の強さの違いを考えさせられます。メコン川に豊富にあるとされているボーキサイトなどの資源獲得が目的とも言われています。今後この国へ中国の影響は大きくなることでしょう。

## 乾季と雨季

5 月から 9 月雨季、10 月～2 月乾期、2 月中旬から 4 月暑期です。雨季は、毎日雨ですが、土砂降りとその後のきれいな青空の毎日。乾期は、雨がほとんど降らず、遠くが土埃でかすんでいます。そして暑期は、40 度を超えることも。

“ジャット”では以前は、5 月の連休にも視察ツアーを組んでいました。しかし、この時期はおなかの弛む方が多発。乾期には、どなたも弛んだことがありませんでした。そこで、ツアーは、乾期に行う

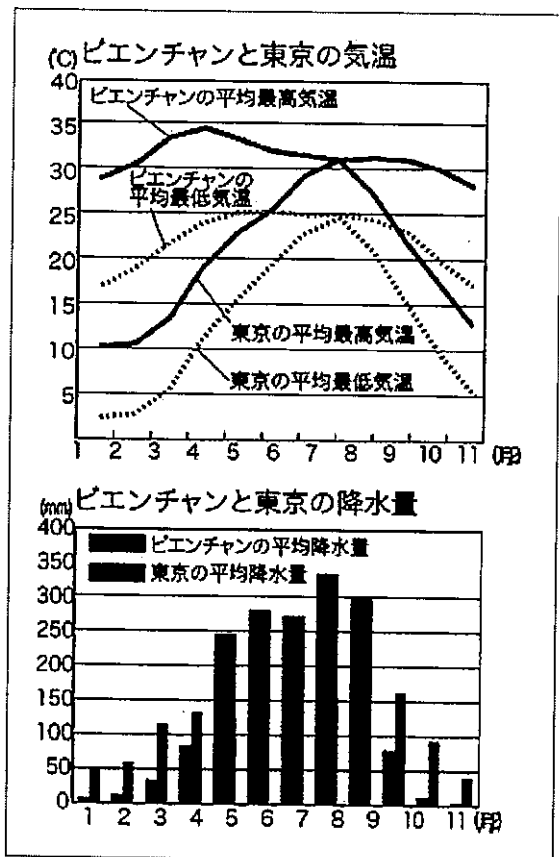
ことにしています。乾期は、ラオスでは冬です。朝夕は10度くらいに冷えます。山間部では、もっと低下にまで。それでも昼間は夏の気温でした。しかし地球環境変化のためでしょうか。2008年12月のビエンチャン訪問では昼間も気温が低く、長袖の上着を着て過ごしました。2009年の訪問時は、なんと乾期なのに毎日明け方に雨が降りました。静かな雨(マンゴーをおいしくしてくれる雨と言われてい  
ます。)が出発する8時過ぎまで降っていますが、車が首都のはずれから舗装道路の無い田舎に入るころには雨が止み、道路の土埃を舞い上げずに進むことができました。歩く人、自転車、耕運機、バイクの人たちに気兼ねせずすみしました。雨期のように泥水に足を取られることもなく日中はほこりにもそれほどまみれず、異常気象なのでしょうが、動きやすかったです。



### 乾期の農業

雨季には稲作(もち米)ですが、野元さんの報告にもあるように、乾季にはその田んぼは灰色です。川からの用水路が発達していません。川は乾季にはその数ヶ月間、川底の半分以上が地表に現れます。表面に出た川底斜面を畑にして、乾季だけの野菜栽培がおこなわれます。雨季に上流から新しい土を運んでくるので肥料は不要です。村では、現金はありませんが、食べ物にはそれほど困りません。ただし、数年前に洪水の時には米が不足し日本から米が送られた事がありました。ラオス人から日本の米はまずいとされました。たぶん暑い中を輸送された古々米をラオス式に米をといですぐに炊いたので。日本に送られたタイ米を思い出しました。タイ、ラオスで食べる タイ米、ラオス米はとてもおいしいです。

メコン川流域は降雨量に恵まれ、土壌が肥沃なため葉菜類の栽培も多いです。コーン島のあるチャンパサック県のボロベン高原は良質なコーヒー、キャベツ、ジャガイモの産地であり、コーヒーはラオス最大の輸出農作物です。



グラフ参考：地球の歩きかたより

※5～9月ダントツに多くなるのがビエンチャンです

## 久木野 勲

ポー・ンゴイ小学校の分校に視察に行った時の様子を述べます。

いくつかの小学校を「じゃっど」が支援に行ったなかで、皆、支援活動をしていくべき所がありますが、特に印象に残った所の感想等を述べます。

ポー・ンゴイ小学校の分校は低学年が学ぶ小学校で、高学年は離れた地域にあり、その時はちょうど学校が休みで、小学校の分校の近くの集落から急きよ、その村長さんや学校の先生及び児童が集まって来ました。

(学校関係者に衣類を手渡す久木野氏)



ラオスのコンサップ医師(じゃっどの協力者)が通訳を兼ねて、対応していただいたなかで、その分校はまだ出来て年数も経ってなくて、小学校の校舎の中に入ったら、黒板や机及び教材は充分でなく、この状態で学校が成り立っているかな?と思った。しかし、写真②でご覧のように皆明るい様子で一安心しました。物が少ない小学校の分校でしたので、先生や児童達も喜んでいただきました。

また、ラオスのコンサップ医師がある子供の耳を観て、これはひどいと言われ、早速、自分のポケットマネーで、町の医者に診てもらうように現

地の先生に渡されました。

ラオスでもなかには、病になっても医者(経済的?)に診てもらわない子がいるのだと思うことでした。そのこと等を思えば、「じゃっど」の活動がラオスの子どもに支援していかなくてはならないと感じるところでした。



写真②

## 帖佐 徹

——2009年ツアーと“じゃっど”の歴史——

新型インフルエンザのパンデミックやタイの政治混乱など、世情騒然たる中、またラオスに赴くこととなった。今回のツアーはいつになく平均年齢が高く、従ってアルコール度も高かった。また、カンボジアツアーもあってやや忙しい日程であり、前後のベトナムでのトランジットの長さが身に堪えたものの、企画全体としては楽しく示唆に富むもので、小生にとってはつまる所良い年の暮れであった。

今回、いくつかの小学校を訪問して、つくづく感ずるのは、「ヒトの力」である。じゃっどを長くやっていけるのは、結局現場にいるラオス人自身の力に他ならない。Dr.Kongsap や Dr.Somchit を始めとする熱い心の人達が居るからこそである。今回訪問した一つの小学校は校長が嘆いていたが、村としての協力が少ないため、校舎の補修作業もままならないとのことである。このような場合、日本にいる我々が住民のモチベーションを上げることは難し

く、基本的に現場のラオス人に期待せざるを得ない。結局、じゃっどの活動とは、ラオス人の自助努力と目的達成を助ける「支援」に他ならないのである。もちろん吉田いつ子氏のように、現場に長期滞在するじゃっどメンバーは、日本側から伝わる直截的な「ヒトの力」である。このような力に支えられていることが、じゃっどをユニークな NGO にしていると思われる。じゃっどメンバー自身はあまり認識していないかも知れないが、学校保健をラオスに導入した最初の NGO はじゃっどである。今回も各小学校で披露された、ラオス人音楽家作詞作曲の衛生の歌（アナマイソング）は、吉田いつ子氏のオリジナルアイデアである。各種の衛生絵本のラオ・バージョンや、机や椅子の供与もじゃっど開発の手法である。東京大学医学部が実施しているラオス学校保健、今日ラオスで、普遍的に行われるようになったこの種の支援手法も、源流はじゃっどにある。じゃっどの衛生の歌（アナマイソング）を JICA がコピーして多くの学校に届けている。尊大になる必要はないが、自分たちの方向は正しかったと密かな誇りを持っていいように思う。



また今一つ感じたことは、「継続は力なり」である。各小学校で教師や生徒たちの笑顔を見ると、時間をかけてよかったのだと感じる。熱意も力もある立派な NGO は過去にも多く存在したが、撤退・解散したものもまた数多い。その最たる理由は、「事業的拡大」を図り基金に手をつけてしまったとか、日本スタッフの派遣に予算を使いすぎたとか、熱い想いが仇となったものである。やはり NGO は、熱い心と冷えた頭の両輪が必要であり、百倍の拡大より百

年の継続をこそ目指すべきであろう。短兵急に我々の世代での成果を願うより、「米百俵」で世代間の橋渡しの役割をこそ担うのである。

最後に、ラオスにも「経済開発」の波は押し寄せていると、ある意味脅威を覚えた。中国の経済投資による東南アジアスポーツ大会のスタジアム、韓国資本によるホテルや銀行、町中を走る中国製バイクと韓国製ワンボックスカー等々、その勢いは恐ろしいほどである。それでも韓国やベトナム資本は学校校舎建設に寄付したり、病院建設を支援したり、互助意識の高さを感じるのであるが、中国資本に関しては建築資材も人力も中国から全て持ち込みだけに、雇用などラオスへの波及効果はほとんどない。中国の進出は、将来的にラオスにどのような裨益効果があるのか、計5年滞在して中国のことはよく知っているだけに、懸念を禁じえない。

小生らが赴任した当時、ラオスは知る人ぞ知る「楽園」「秘密の花園」であった。それは美しい自然やのどかな気候もさりながら、穏やかで優しくつつましい人々への共感が大きい。働きやすく、暮らしやすいのである。今やそのことを世界中が知ってしまい、「援助の展覧会」化しているように思える。様々な協力機関がそれぞれのポリシーをラオス側に勧告しているが、時にはそれらは相互矛盾しており、混乱を来す。これは協力機関が自身の成果を目指すためであり、ラオス人の幸福を目指すという本来の援助理念からは本末転倒と言わざるを得ない。じゃっどは NGO として「援助成果」や「研究業績」を目指しているわけでない。そのような陥穽に落ちることなく、地道な活動をラオスと日本の次の世代に引き渡せたら、と願う次第である。



◆**モーラム**：ラオスやイーサーン（タイ東北部）などにおけるラー族（ユワン族を除く）の伝統的音楽である。モーラムとは、イーサー語あるいはタイ語であり、ラオスではラム（音楽）ラーオという。

本来は、独特のリズムとケーン（笛の一種）による主旋律、裏返って、途切れそうなボーカルを特徴とし、その内容は生活の貧窮や政治批判などの社会・政治的なものから恋愛や人情などのものまで多岐に渡る。（ネットで検索）

◆**シーゲーム（SEA GAME）**・・・とは東南アジア競技大会のことで、

さしずめオリンピックの東南アジア版といえはわかりやすいかと思えます。

隔年で開催され、2009年ラオスが開催国となりました。各国メダル獲得に向け、大いに盛り上がったようです。今年は11カ国3038人の選手の参加がありました。

（以下 パテートラオ紙より抜粋）

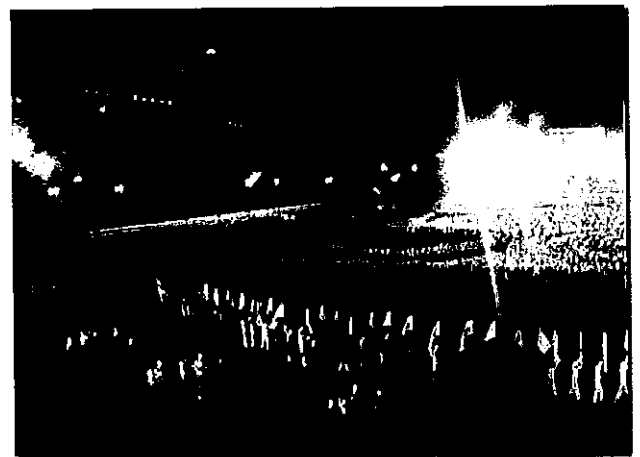
11月28日シーゲームの開会式と閉会式のリハーサルがメインスタジアムにて行われた。リハーサルには2万人のヴィエンチャン市民が参加、うち8000人が演技を行った。

開会式では7つの演目が行われ、歓迎、森林、水流、黄金の水田、蠟燭の火と善行、新世代、勇気で構成。

閉会式は人民軍演目、国旗、アセアン各国の国旗、シーゲーム旗、ヴィエンチャン市旗が掲げられ4000人の学生による演技が行われた。

#### 競 技 種 目

サッカー、レスリング、テコンドー、柔道空手、テニス、バレーボール、水泳、ゴルフ、射的、テコンドー、レスリング、セバタクロウ、ピンポン、バドミントン、ビリヤード、陸上、ベタング、重量挙げ、アーチェリー、自転車



\*\*\*ちなみに結果は、ラオス金33個、銀25個、銅52個の好成績でした。(^.^)/~~



# じゃっと INFORMATION

## ◆じゃっと総会のお知らせ◆

日時:5月15日(土) 15:00~16:30

場所:すこやかふれあいプラザ (22-8811) 第1会議室

※正会員[議決権保有]のみなさま

本レターに同封してあります出欠のはがきを、5月8日までに必ずご返送ください。

## ◆ラオス 写真展を6月26日、27日にフラッセだいわ川内店にて開催決定!◆

沢山のご来場をお待ちしています。(お手伝いできる方募集中!)

### ◆九州電力生活協同組合様より

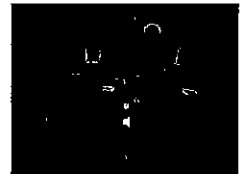
寄付金を頂戴しました。ありがとうございました!



川俣氏と帖佐事務局長、若田監事

**NEW**

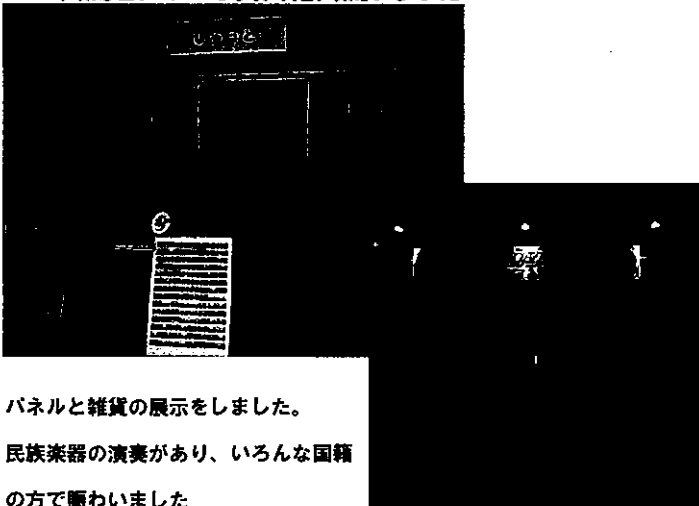
ラオス雑貨入荷しました  
伝統の美しい絹スカーフやかわいい小物が揃っています。きゃんせバザーをお楽しみに!



事務局にも是非お立ち寄りください。

### ◆かごしま国際フェスティバルに参加!

交流センターで異文化交流しました



パネルと雑貨の展示をしました。

民族楽器の演奏があり、いろんな国籍の方で賑わいました

編集後記

★ またまた編集に関係ないけど、オリンピックは感動でした。真央ちゃん・キムヨナ選手は素晴らしかったですね。早いもので3月…ム・花見・酒…」 (\*~\*) (K. K)

★ 国際フェスティバルに参加し、民族衣装体験ブースで韓国のチマチョゴリを着せてもらい、大変御満悦の私でした

(^^) はいぶりっじ

★ラオスツアー参加者の皆さんに、お仕事ご多忙を承知の上、何度も原稿依頼の電話をし、率直なご感想頂ました。やっと紙面報告できました。有難うございました (^^)! (M. M)

